牛 肉 情 勢

3月13日 更新　JA全農ミートフーズ株式会社

項目		内容
供給	1.国産	○ 1月の成牛と畜頭数は、85.2千頭(前年比101.7%)と前年を上回った。 内訳を見ると、和牛:39.3千頭(前年比109.1%)、交雑牛:20.0千頭(同99.8%)、乳牛去勢:10.2千頭(同97.4%)となった。 ○ 2月の成牛と畜頭数は、速報値(2月29日まで集計)で81.6千頭(前年比98.4%)と前年を下回る見込みとなった。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(2月27日公表)によると、2月の出荷頭数は、乳用種が減少するものの、和牛、交雑種で増加が見込まれることから、 前年を上回ると予測し、3月は、全品種で減少が見込まれることから、前年同月を下回ると予測する。 (2月 84.9千頭(前年比101.9%)、3月 86.8千頭(同93.0%))。 そのため、3か月平均(1月～3月)では、出荷頭数84.8千頭(前年比97.5%)、生産量27.1千ﾄﾝ(同98.2%)と前年を下回る予測となっている。
	2.輸入	○ 1月の輸入通関実績は、全体で43.3千ﾄﾝと前年を上回った(前年比108.4%、前月比119.8%)。 内訳ではチルド:17.0千トン(前年比105.5%、前月比112.8%)、フローズン:26.3千ﾄﾝ(前年比110.3%、前月比124.8%)となった。 輸入相手国別では、チルドは豪州が増加したが、それ以外は減少し、フローズンは豪州、ニュージーランド、米国、カナダが増加した。 (参考:形態別相手国別輸入数量) チルド　:豪州8.1千ﾄﾝ(前年比149.3%)、米国7.5千ﾄﾝ(同87.6%)、ニュージーランド0.6千ﾄﾝ(同83.2%)、カナダ0.4千ﾄﾝ(同58.6%)、メキシコ0.1千ﾄﾝ(同62.5%) フローズン :豪州12.7千ﾄﾝ(前年比130.4%)、米国7.9千ﾄﾝ(同102.0%)、カナダ2.6千ﾄﾝ(同89.1%)、ニュージーランド1.8千ﾄﾝ(同112.7%)、メキシコ0.7千ﾄﾝ(同63.7%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、チルドは、2月は前年の豪州産の輸入量が入船遅れの影響で少なかったことから、前年同月を上回ると見込んでいる。3月は輸入先全体の輸入量が少ないことから、下回ると見込んでいる。 フローズンは、生産量の増加から豪州産輸入量が増加するものの、輸入先全体の輸入量が少ないことから、2月、3月とも前年同月を下回ると見込んでいる。3か月 平均でも、チルド、フローズンともに下回ると見込んでいる。 令和6年 2月　合計:35.1千ﾄﾝ(前年比92.4%)、チルド:14.6千ﾄﾝ(同109.7%)、フローズン:20.5千ﾄﾝ(同83.1%) 令和6年 3月　合計:33.5千ﾄﾝ(前年比91.1%)、チルド:14.8千ﾄﾝ(同83.3%)、フローズン:18.7千ﾄﾝ(同98.5%) 直近3か月(1月～3月)平均 合計:37.2千ﾄﾝ(前年比97.2%)、チルド:15.7千ﾄﾝ(同99.9%)、フローズン:21.5千ﾄﾝ(同95.5%)
需要	1.家計消費 2.小売動向 1月概況	○ 総務省発表の1月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり牛肉購入量は452g(前年比92.1%)、支出金額が1,752円(同98.3%)となり、 購入量、支出金額ともに前年を下回った。(※2019年度同月比:購入量 82.5%、金額 96.8%) ○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の1月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,253.8億円(前年比100.0%、既存店ベース99.3%)と前年並みとなった。 精肉全般で相場高傾向のなか、牛肉から豚肉や鶏肉に需要がシフトする傾向が続いている。前年の鳥インフルエンザからの反動もあり、相場が安定している鶏肉が最も好調に推移した。 牛肉は年始の焼肉、すき焼き用は、動きが良かったが、それ以外は不振となった。豚肉も国産、輸入ともに高値で伸び悩んだ。ハム・ソーセージの加工肉は引き続き動きが鈍い。 ○ 日本チェーンストア協会が公表した1月販売概況によると、畜産品の売上は959.7億円(店舗調整後で前年比99.9%)となり、前年並みとなった。 鶏肉の動きは良かったが、牛肉、豚肉の動きは鈍かった。鶏卵は良かったが、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。
	3.外食 1月概況	○ 日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査1月度結果報告によると、元日に能登半島地震があり、一部で宴会や観光の自粛が見られたが、主として人口の多い地域が牽引し、年末から引き続き外食需要は概ね堅調。 インバウンド需要も引き続き好調で、全体売上は前年比109.6%、2019年比では113.5%となった。消費者の間ではバリューを感じられる外食の選択が進み、利便性やコスパが優れているメニューの支持も強い。 業態別; ①ファーストフード　前年比108.9%、2019年度比128.6%　CMの販促効果や価格改定による客単価上昇があり、繁華街や大型商業施設の客足が回復し好調 ②ファミリーレストラン　前年比110.7%、2019年度比103.2%　新年会需要に合わせた高価格帯商品に加え、バリュー商品やクーポン利用が集客に貢献し好調。焼肉店は食べ放題業態が引き続き好調 ③ディナーレストラン　前年比112.0%、2019年度比 98.4%　関西では、能登半島地震の影響でキャンセルが一部で見られたが、その他の地域では引き続きインバウンドの需要が堅調 ④居酒屋　前年比107.8%、2019年度比 61.7%　平日は集客に苦戦したところもあったが、月末にかけてオフィス街立地の店を中心に中小規模の宴会が回復傾向となった
	4.輸出	○ 1月の輸出実績は602.8ﾄﾝ(前年比139.8%)と前年を上回った。台湾向け(108.1ﾄﾝ、前年比214.0%)、香港向け(93.9ﾄﾝ、前年比151.6%)は上回ったが、 米国向け(129.0ﾄﾝ、前年比73.2%)は前年を下回った。また、カンボジア向け(42.3ﾄﾝ、前年比350.5%)は前年を上回ったが、不安定な状況が続いている。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、1月末の推定期末在庫量は133.9千ﾄﾝ(前年比86.2%、前月比103.2%)と前年を下回った。 内訳は、輸入品;122.2千ﾄﾝ(前年比85.3%、前月比104.3%)、国産品;11.6千ﾄﾝ(同97.2%、同92.1%)となり、輸入品、国産品ともに前年実績を下回った。 なお、今後の期末在庫の推移は、2月末;131.0千ﾄﾝ(同84.5%)、3月末;123.2千ﾄﾝ(同82.3%)と、1月、2月ともに前年を下回ると見込まれている。
枝肉相場	1.R6年2月 速報値	○ 2月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;2月29日時点)は、和牛去勢A5が2,578円(前年比102.7%)、A4が2,255円(同103.0%)、交雑去勢B3が1,545円(同112.8%)、 乳牛去勢B2が845円(同92.6%)であった。 ○ 1月の和牛価格が高値となったため、末端需要の一部が交雑種へ移行したことから、和牛は前月は下回ったものの前年は上回り、交雑種は前月・前年ともに上回った。
	2.R6年3月 予測	○ 月前半は和牛から交雑種への需要移行が続くと見込まれ、和牛は需給が緩むことから弱含み、交雑種は需給が引き締まるため強含みで推移すると見込まれる。 月後半は、コロナ5類移行後初の卒業式や送迎会時期となり和牛への需要回帰が起こることから和牛は強含み、交雑種は弱含みで推移すると見込まれる。 月平均では和牛・交雑種とも横ばいの推移が見込まれる。乳牛去勢は、需給バランスに大きな変化がないことから横ばいを見込む。 ◎ 枝肉相場予想:東京市場【税込」　1月実績　2月速報値　3月予測　4月予測 ・和牛去勢 「A-5」:　2,595円 (101.6%)　2,578円 (102.7%)　2,550円 (98.9%)　2,600円 (99.4%) ・和牛去勢 「A-4」:　2,315円 (101.0%)　2,255円 (103.0%)　2,250円 (99.8%)　2,300円 (98.8%) ・交雑去勢 「B-3」:　1,515円 (103.2%)　1,545円 (112.8%)　1,550円 (107.6%)　1,600円 (106.1%) ・乳牛去勢 「B-2」:　866円 (93.9%)　845円 (92.6%)　850円 (91.5%)　850円 (78.8%)
部分肉相場	1.R6年3月 予測	◎ 首都圏仲間価格【税抜】　【和牛:4等級】　【ホルス:2等級】　【交雑牛:3等級】 ・和牛カタセット(スネなし) : 2,900円　・ホルスカタセット(同) : 1,850円　・交雑牛カタセット(同) : 2,200円 ・和牛ロースセット(ヒレなし): 6,200円　・ホルスロースセット(同): 2,950円　・交雑牛ロースセット(同) : 4,400円 ・和牛モモセット(スネなし) : 3,700円　・ホルスモモセット(同) : 2,000円　・交雑牛モモセット(同) : 2,350円 ・和牛トモバラ : 1,800円　・ホルストモバラ : 1,100円　・交雑牛トモバラ : 1,350円

備考

○国内生産量の推移(単位:千頭・%)

暦年	和牛計 頭数	和牛計 前年比	交雑牛計 頭数	交雑牛計 前年比	乳牛去勢計 頭数	乳牛去勢計 前年比	成牛計 頭数	成牛計 前年比
R2年	477.2	104.2	227.8	96.2	161.6	96.2	1,047.1	100.8
R3年	483.1	101.2	228.9	100.5	154.5	95.6	1,054.6	100.7
R4年	490.2	101.5	248.6	108.6	140.8	91.4	1,083.1	103.0
R5年	506.7	103.5	262.1	105.5	131.5	93.5	1,098.7	101.7
R5年　10月	44.4	109.8	22.4	102.6	11.1	102.9	96.0	104.7
R5年　11月	55.6	103.3	24.5	97.4	11.1	92.0	108.8	98.0
R5年　12月	47.9	102.1	23.3	101.5	10.5	94.3	97.5	98.9
R6年　1月	39.3	109.1	20.0	99.8	10.2	97.4	85.2	101.7

※成牛計は、乳牛雌やその他品種も含まれるため数字が一致しない

○輸入量の推移(単位:千ﾄﾝ, %)

暦年	輸入数量合計 数量	輸入数量合計 前年比	チルド数量 数量	チルド数量 前年比	フローズン数量 数量	フローズン数量 前年比
R2年	600	97.6	262	95.1	339	99.5
R3年	585	97.4	264	100.9	321	94.7
R4年	560	95.4	217	83.0	343	104.3
R5年	504	90.9	199	92.6	305	91.3
R5年　10月	40.3	82.9	16.8	115.3	23.5	69.1
R5年　11月	33.4	84.7	14.5	82.0	19.0	86.9
R5年　12月	36.1	96.4	15.0	97.3	21.1	95.8
R6年　1月	43.3	108.4	17.0	105.5	26.3	110.3

＊財務省:通関実績

○総務省:家計消費量(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)　○輸出量の推移(単位:ﾄﾝ、%)

暦年	全国1世帯当り 数量	全国1世帯当り 前年比	全国1世帯当り 金額	全国1世帯当り 前年比	チルド数量	フローズン数量	合計	前年比
R2年	7,199	109.8	23,677	111.8	2,341	2,503	4,845	111.6
R3年	6,748	93.7	23,210	98.0	3,490	4,388	7,879	162.6
R4年	6,232	92.4	22,355	96.3	3,737	3,717	7,454	94.6
R5年	5,867	94.7	21,451	95.9	4,222	4,199	8,421	113.0
R5年　10月	431	80.9	1,621	91.1	362.0	474.7	836.7	100.7
R5年　11月	445	97.6	1,715	99.1	391.3	451.6	842.8	122.6
R5年　12月	654	100.3	3,025	98.1	446.1	463.3	909.4	103.6
R6年　1月	452	92.1	1,752	98.3	289.5	313.3	602.8	139.8

○市況の推移:　東京市場(税込み、単位:円/kg、%)

暦年	和牛去勢A-5 価格	和牛去勢A-5 前年比	和牛去勢A-4 価格	和牛去勢A-4 前年比	交雑牛去勢B-3 価格	交雑牛去勢B-3 前年比	乳牛去勢B-2 価格	乳牛去勢B-2 前年比
R2年	2,459	90.0	2,103	87.3	1,398	85.9	924	91.0
R3年	2,702	109.9	2,427	115.4	1,554	111.1	1,004	108.6
R4年	2,607	96.8	2,348	96.9	1,523	98.1	1,042	102.4
R5年	2,558	98.1	2,202	93.8	1,474	96.8	878	84.3
R5年10月	2,519	95.1	2,058	87.9	1,422	93.5	828	79.5
R5年11月	2,628	99.2	2,235	94.0	1,514	100.5	791	70.9
R5年12月	2,736	101.8	2,416	100.7	1,642	103.7	795	77.3
R6年1月	2,595	101.6	2,315	101.0	1,515	103.2	866	93.9
R6年2月速報値	2,578	102.7	2,255	103.0	1,545	112.8	845	92.6

農水省食肉流通統計

(速報値は農畜産業振興機構が公表する東京市場の平均枝肉価格)